



花園大学 教員 学生 職員 おすすめ図書

2016 NOVEMBER

花園大学の先生、図書館司書資格課程を学ぶ本好きの学生たち、事務職員が選んだ、皆さんにぜひ読んで欲しい本のリストです。コメントを付けて、図書館1階の「おすすめ図書コーナ」に配置してあります。貸出することもできます。貸出期間は1週間、貸出延長はできません。

花園大学情報センター（図書館）

教員のおすすめ図書

v.5.0 2016 NOVEMBER



モモ

時間どろぼうと、ぬすまれた時間を人間にとりかえしてくれた女の子のふしぎな物語
ミヒヤエル・エンデ作

岩波書店

1983

第21代学長

丹治光浩

〈請求記号〉

909.08/I 95/37

時間どろぼうと、ぬすまれた時間を人間にとりかえしてくれた女の子のふしぎな物語。超有名な本ですし、既に子どもの頃に読んだことがある人も少なくないでしょうが、もう一度読んでみませんか。新たな感動と学びを保証します。映画化もされており、HUMICにはDVDもありますが、是非原作を読んでほしいと思います。興味があれば、重松宗育著『モモも禪を語る』(筑摩書房)も併せて読んでください。



医者、用水路を拓く

アフガンの大地から世界の虚構に挑む

中村哲著

石風社

2007

文学部 日本史学科

菅修一

〈請求記号〉

517.13/N 37

すばらしい行動力

先日、NHK教育ETV特集で「武器ではなく命の水を～医師・中村哲とアフガニスタン～」を見た。中村医師の活動は行動的である。アフガンの乾燥した砂漠地帯で健康を害していく人々の快復を願い、大規模な用水路を拓く。中村医師自身が重機を操作する。中村医師の真剣で行動的な活動にアフガンの人たちも一緒にになって用水路を拓いていく。何十万人のという人が用水路の恩恵を受けたという。その中村医師の活動が本になっている。



文庫本宝船

坪内祐三著

本の雑誌社

2016

文学部 日本文学科

曾根誠一

〈請求記号〉

019.04/Ts 21

坪内祐三が『週刊文春』に連載している「文庫本を探せ！」を、単行本にした本。玄人好み風の文庫本紹介だが、読書の世界を拡大し、未知の領域を知るための絶好の案内書。興味を持てる本があったら、是非読んでいただきたい。雑多な知識を得ることで、自分の世界を広げてほしい。



人は死んだらどうなるのか

:あの世のルール

さとう有作著

幻冬舎

2016

社会福祉学部 社会福祉学科 西岡秀爾

イラストでわかる仏教的な死後世界

有るのかな？無いのかな？誰もが気になる「あの世」の世界。六道輪廻、中陰、初七日、賽の河原…、なんとなく聞いたことのある言葉がフルカラーの漫画でわかりやすく紹介されています。読みすすめるうちに、なぜか安心した気持ちになります。是非、手にとってみてください。



小説新聞社販売局

幸田泉著

講談社

2015

文学部 創造表現学科 秦美香子

新聞販売のヤバイ実態

〈請求記号〉

913.6/Ko 16

新聞は日本で最も売れている出版物です。全国主要5紙(読売・朝日・毎日・日経・産経)の販売部数合計は、公表では約2,300万部です。ちなみに『ONE PIECE』の初版発行部数はだいたい400万部弱だそうです。でも学生の皆さん、新聞って毎日買っていますか？「新聞を読め」とよく言われるけど、本当に、みんな新聞を読んでいるの？って思ったことありませんか。この小説を読んでみてください。答えがわかります。



体の贈り物

レベッカ・ブラウン著

新潮社

2004

社会福祉学部 社会福祉学科 福富昌城

私たちはどうな贈り物をもらっているのだろうか？

主人公は、エイズ患者のホームケアプログラムを提供する団体のホームケアワーカー。綴られるのは、主人公と利用者やその家族、他のスタッフとの間での11の物語。衰弱が進むうちに身の回りのことができなくなっていく利用者。死に向かう彼らのケアをする主人公が、彼らのことを気遣い、大切に思い、あるいは彼らから何かを得る。自身もホームケアワーカーの経験があるというレベッカ・ブラウンは、それを「贈り物(Gifts)」と表現している。



マインドフルネス瞑想ガイド

:4枚組のCDで実践する

J.カバットジン著

北大路書房

2013

| 社会福祉学部 臨床心理学科 橋本和明

<請求記号>

498.34/Ka 11

近年、マインドフルネスが注目を受け、臨床心理学以外の分野でも盛んに行われている。そもそも日本の禪から生まれたこのマインドフルネスは欧米に渡り、自分に向き合う瞑想として流行した。アップル社を創設したスティーブ・ジョブズがそれをしていたことはあまりにも有名である。そのマインドフルネスについて書いている本はたくさんあるが、カバット・ジン氏はその代表である。4枚組のCDもあり、是非、マインドフルネスを体験しながら、これを読んでいただきたい。



「子どもといふ自然」と出会う

:この時代と発達をめぐる折々の記

浜田寿美男著

ミネルヴァ書房

2015

| 社会福祉学部 児童福祉学科 山口真希

<請求記号>

371.45/H 22

長い人類史に照らしてみれば、「発達、発達」と呼ばれるこの時代は極めて特殊で、子育て観や子どもが置かれている環境は異様であると言えるかもしれません。本書は、私たちが当たり前に享受している今の人々について、危機感を抱き問い合わせきっかけを与えてくれます。学校教育にかんする問題や冤罪事件等を題材に人が育つこの世界が捉え直されています。この時代に生を受けおとなになっていく過程についてじっくり考えてみてはいかがでしょうか。



保育園義務教育化

古市憲寿著

小学館

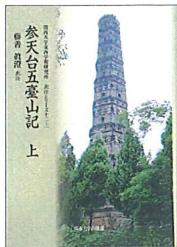
2015

| 社会福祉学部 児童福祉学科 吉田貴子

<請求記号>

376.1/F 93

子育てを取り巻く問題を耳にしますが、どんな解決策があるのが、この本を読みながら考えてみませんか？読みやすい本です。



參天台五臺山記 上・下

[成尋著]

関西大学出版部

2007

文学部 外国語教育課程 衣川賢次

<請求記号>

188.428/J
66/1~2

成尋(じょうじん、1011~1081)の渡宋、滞在の日記(北宋熙寧五年[1072])

3月15日~六年[1073]6月12日)は、佛教史・日中交流史・宋代史また域外漢文の資料として価値はきわめて高いと予想されながら、いかんせんそのひどい漢文とわるいテクストのせいで(それだけではないが)、読むのに苦労したものであったが、本書が出て、その苦心の訳讀と詳細を極めた注釈によってはじめて通読し理解することが可能となった。これはほんとうにありがたい(功德無量!)。成尋は天台山・五臺山巡礼を目的に、密航同然に宋商の船で渡宋したのであったが、到着するや異例の待遇を得て、神宗からは旅費まで賜わり、短期間のうちに大名行列さながらの巡礼をすませ、首都開封では謁見がない、訳庭に列なり新訳經典を下賜され、祈雨の修法では大雨を降らせて信任を得、その後一年の天台山修行の希望も給与つきでかなえられた(が、以後の消息は不明)。唐末に渡航して辛酸を嘗めた圓仁(えんにん)の場合とは天地の懸隔がある。同じく漢文の日記をのこしながら、圓仁のそれは年を逐って上達がわかるが、成尋のはしまいまでひどい文章に変化がない。成尋が至るところで金や物品を「志与」と言ってばらまいているにも驚かされる。五臺山に行く途中で乞食に逢い、施しをしようとしたら、その乞食に「僧尼の錢は受け取るわけにゆかない」と断わられたところなど、大名行列のせいで墮落して、自分が乞食であることを忘れているのだ。しかし本人は誠実な人柄であったことがよくわかり、通訳に雇った陳詠は成尋に感化されてついに出家したという。圓仁『入唐求法巡礼行記』、成尋『參天台五臺山記』、策彦(さくげん)『入明記』は日本人僧の手に成る三大中国旅行記と称すべく、小野勝年・藤善真澄両生による注釈は日本の誇るべき成果で、あとは唯一牧田諦亮先生の遺志を継ぐ人を待つのみとなつた。附言したいのは、こういう日中交流にかかる史料、とくに日本漢文をあつかうには、できることなら中国の学者および日本語学の専門家との合作がのぞましいことである。『參天台五臺山記』の場合、白化文・李鼎霞『參天台五臺山記』(中国花山文藝出版社、2008年)、王麗萍『新校參天台五臺山記』(上海古籍出版社、2009年)程度ではたいして助けにもならないが、成尋は日本語そのままか、日本語の語順で漢字を列ねていることが多いので、平安時代語(漢文を含めて)の研究者の協同参加があれば、日本人の日記体漢文としての読解に有用であろうとおもう。また阿南・ヴァージニア・史代『圓仁慈覚大師の足跡を訪ねて 今よみがえる唐代中国の旅』(小池晴代訳、ランダムハウス講談社、2007年)は80年代から圓仁のたどった道を写真におさめ、変化の激しい中国の古い名残りをなお留めていて、読んで楽しかった。